

《8月6日(日) 8:40~10:54放送》

私たちが伝えていけることを考えました 新里カオリのうららか日曜日 ～被爆72年「戦後」はいつまで続くのか～

今年の8月6日(土)は「戦争をどうとらえ、どう伝えていくのか」をテーマに、「新里カオリのうららか日曜日～被爆72年「戦後」はいつまで続くのか～」を放送しました。

埼玉から尾道への移住者の新里カオリが、アメリカ生まれで広島在住の詩人アーサー・ビナードとリスナーの皆様とともに、「戦後」を続けていくために何が出来るかを考えて行きました。

番組では、映画「この世界の片隅に」にも登場する被爆前の中島町（現平和公園）で生まれた濱井徳三さんとともに、平和公園を歩きながらお話をきき、当時の暮らし、失われた人々や生活に思いをはせました。

また「この世界の片隅に」で戦時中の日常を描いた片渕須直監督とともに、当時呉で学徒動員で働いていた大久保圭子さんのお話を聞き、もしかしたら今の日常生活も、情報を知らずに戦争に勝ると信じていた戦前の日常との違いはないのか、不自由のない今の生活も、戦時の生活になることはないのか？と議論をすすめました。

2時間の特別番組で、すべての人が考えられる生活、という視点で、原爆、そして戦争について考える時間になりました。



■放送中のスタジオ。
新里カオリ、
片渕須直監督、
アーサー・ビナード

■詩人のアーサー・ビナード、
ゲストの映画「この世界の片隅に」の片渕須直監督。
パーソナリティの新里カオリ

